The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	洛星高校での授業について
Author(s)	濱田, 唯
Citation	臨床哲学のメチエ. 2006, 15, p. 40-41
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/11995
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

コーディネーターからの感想

洛星高校での授業について

濱田　惟

私にとって、研究室主催の出前授業への参加は初めてでした。前に研究室で行われた福井高校での実践は、他人事のようにメチエで知って「大変だなあ」と思っただけでしたが、今回アシスタントという形で加えてもらい、少しはその難しさを感じることができました。もっとも私自身、昨年に数コマ程度高校の非常勤講師として授業をして、ささやかな創作授業をいくらか試みたのですが、目の前の生徒に伝わること / 伝わらないことの境が分からずに七転八倒した覚えがあります。その点今回の強力な講師陣の方々は、その力量（もしくは年の功）からか、いろんなテーマに生徒の関心と意見を喚起していて、とても参考になりました。できれば、私自身の担当以外の授業にも顔を出してみたかったです。

他方で、やはり生徒に対してどんな授業が良いのかに関しては、企画メンバーとしては全体的に試行錯誤が続いたのではないかと思います。学校の教室のように、すでに特有の生活文化や人間関係がいくらか出来上がっている教室に、異質な外部者としてやってくる私達は、彼らに「何をするつもり」なのかを伝えなければならないのですが、肝心のそのことがなかなか難しいのです（というか、私自身まだ良く分かっていないかもしれない）。確かに授業に「対話」を取り入れる方針は、当初から決まっていたと思いますが、それが生徒に伝わるのに後期授業までかかったのではないかと思います。

それでも洛星の生徒は、もちろん個々人で授業への関心は様々ですが、基本的に素直というか、先入観なく授業に意欲的に参加してくれました。ここの学校が進学校であることは聞いていましたが、それでも単に知識を増やすという頭の良さではなく、他人の考えに対してオープンであるという形の賢さを持っていて、私自身教えられたところがあります。話し合いを自分たちから作り上げようという熱意が、議論の中の言葉の勢いに表れていました。又授業後も意見を言いに来てくれたり、誰か他の生徒と話しているのを見ると、自分の高校時代と思わず比べてしまいます。洛星の先生が、よく嬉しそうに生徒の活躍ぶりを語っていたのを思い出します。

確かに、私たちが彼らの学校の外から（NHKの「ようこそ先輩」のように）やって来て、彼らに多少新鮮な感じを与えたからこそ、ある程度挑戦心を持って臨んでくれたかもしれません。しかし他方で、今回の授業は、学ぶ意識の高い洛星の生徒、そしてその生徒を（多くは中学から）育てた学校だからこそ、できたとも言えます。どちらにしても、洛星高校という特定の場に出向くということによって初めて成り立った授業ではないでしょうか。

でも、あんまり私がこんなことを言えた義理ではないですね。この授業が進んだのも講師の方々や、企画してくれた紀平先生や武田さん、樫本さんに真剣に取り組んでもらったおかげなので。私自身が唯一誇れるのは、授業のため朝早くから起きて京都まで行ったことだけです（それでも何度か遅刻しそうになり、かつ一回は迷子になり遅刻しました、すみません）。今回の授業を生徒が、どう将来に結びつけるのか気になりますが、私自身この経験を今後生かしていけたらと思っています。

（はまだゆい）